

# 国語科学習指導案

1 日時 平成〇年〇月〇日(〇) 14:30~15:15

2 場所 〇〇学級教室

3 学年 知的障害特別支援学級

第1学年1名、第2学年2名、第3学年2名、第6学年1名 計6名

4 単元名 「劇をしよう」

5 単元設定の理由

○ 本学級には、第1学年1名、第2学年2名、第3学年2名、第6学年1名、計6名の児童が在籍する。どの児童も明るく朗らかな性格で積極的に話そうとするが、発音が不明瞭であること、語彙や言葉の知識が少ないこと、用法に誤りがあることなどから、相手に明確に伝わらないことが多い。また、相手に伝えよう、相手を理解しようとする意思の希薄さも感じられる。

A児は、自分の気持ちを積極的に言葉で表現するが、自分の思い通りにならないときには人の話を聞き入れず、乱暴な言葉遣いになったり行動が強引になったりするところがある。B児は、事実や自分の気持ちはよく表現するが、相手の話がよく分からなくても返事をしたり、何も言わずにその場から離れたりとところがある。C児は、理解語彙、表出語彙とも少ないが、身振りや表情をもって豊かに表現する。運動麻痺があるため発音は不明瞭で、言い直しを求められると委縮して声が小さくなり、さらに聞き取りにくくなる。D児は、前日にあったことや翌日の予定などをよく話す。口の動きも含めて全体的に筋緊張が低く、また早口になる傾向があり、言葉は聞き取りにくい。E児は、理解している言葉は多いが、発音が不明瞭なこと、早口になる傾向があること、語順が前後したり主語が抜けたりすることなどから、相手にうまく伝わらないことが多い。F児は、事実や興味のあること、想像したことなど、短い文で表現する。また、それに対する質問に答えることもできる。授業中には、他の児童の発言を待たず、先に発言してしまうことが多い。

○ 劇を行うための一連の取組には様々な教育的効果があると思われるが、ここでは児童の実態に照らし次のようなことが期待できると考える。

- ・ 決まったストーリー、せりふ、動きがあり、繰り返し練習することで、自信をもって表現することができるようになる。
- ・ 相手あるいは観客に伝えるために、適度な声の大きさや話す速さ、発音の正確さを意識することができるようになる。
- ・ 相手の動きを見る、相手のせりふを聞く、一緒に声や動きを合わせるなど、相手を意識してやり取りすることができるようになる。
- ・ 登場人物の心情や場面の様子を表す言葉の意味、せりふにある言葉の用法など、演じることを通して理解を促すことができる。

○ 指導に当たっては、以下のことに留意したい。

第1次で読み聞かせをするが、あらすじとせりふを覚えるだけでなく、登場人物の表情や動き、背景などに注目させ、気持ちや様子を表す言葉の理解につながるよう指導したい。その際、音声や文字だけでなく、イラストやシンボルマークを使用しイメージ化を図りたい。

第2次では劇遊びを行うが、児童が「表現することが楽しい」と感じられるよう、いろいろな劇、役を演じられる機会を設けるとともに、最初に提示したせりふや動きのとおりでなくても、場面に合っていれば良いこととし、評価するようにする。また、せりふや動きを想起できるよう、読み聞かせで使用した絵本の絵、イラストやシンボルマークを大型画面に映し出し、それに合わせて演技できるようにする。これらの支援は、児童の様子を見て減らしていくようにする。劇遊び後は、そのとき撮影した映像を見て、自己評価と他者評価をする。他者評価では、「○○さんが、～ので、よかったです。」という話型を用い、他の児童の良かったところを発表する。パターン化された話型を用いることで、児童は発表する内容に専念することができる。また、他の児童から良い評価をされることは、「他人から認められたい」という他者承認欲求と「今の自分に満足しているか」という基準で自分自身を判断する自己承認欲求の両方を満たすと言われている。

第3次では、12月に行われる中学校区交流会に向け、発表する劇と役を決めて練習する。最後には、「大きな声ではっきりとせりふを言えるようになった。」「登場人物の気持ちになって演じられた。」「みんなが喜んでくれた。」のように、それぞれ満足感や達成感を抱けるようにしたい。

## 6 単元の目標

- あらすじやせりふを覚え、場面に合わせた表現ややり取りができる。
- 相手や観客を意識し、声の大きさや調子、話す速さ、動きなどを調節することができるようになる。
- 感情や様子を表す言葉を理解することができるようになる。

## 7 指導計画(21時間扱い)

- 第1次 いろいろなお話を聞こう …………… 3時間  
「おおきなかぶ」「3びきのこぶた」「おおかみと7ひきのこやぎ」「おむすびころりん」「いっすんぼうし」
- 第2次 いろいろな劇遊びをしよう …………… 12時間(本時4/12)
- 第3次 交流会に向けて劇練習をしよう …………… 6時間

## 8 本時の目標

- 全体の目標
  - ・ あらすじやせりふを覚え、場面に合わせた表現ややり取りができる。
  - ・ 劇遊びを振り返り、本時のめあてを達成できたか確かめることができる。

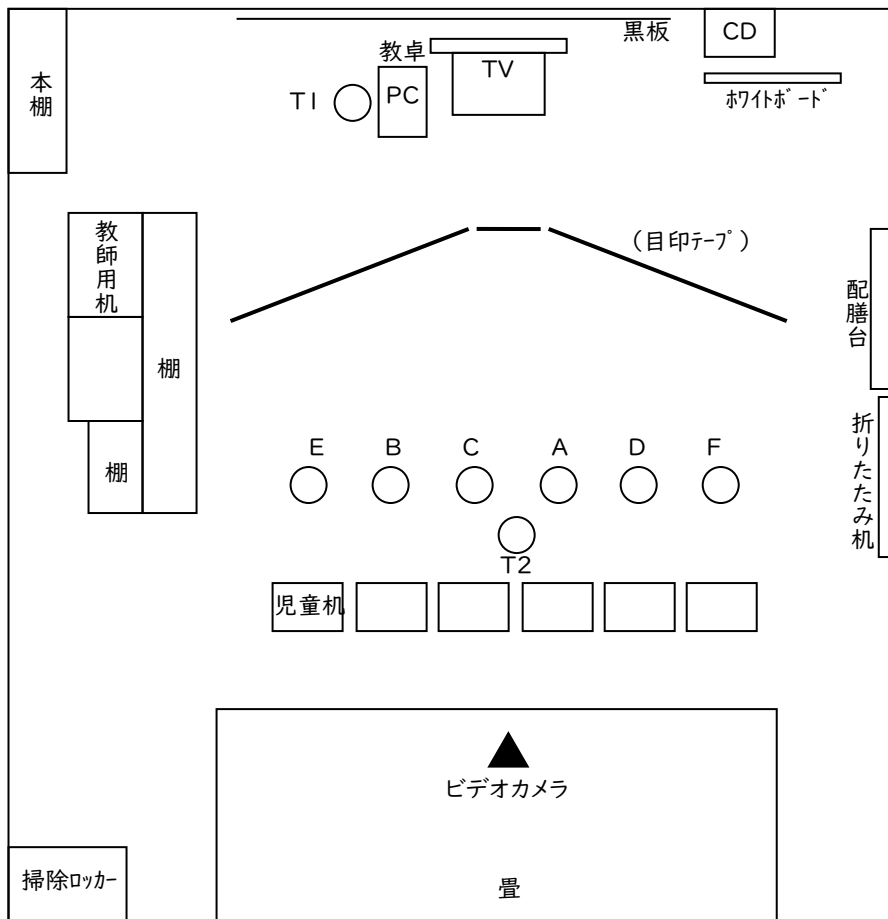
### ○ 個別の目標

A児	○ 相手の顔を見ながらせりふを言うことができる。 ○ 友達のせりふや動きを待ったり、最後まで話を聞いたりすることができる。
B児	○ 登場人物の心情を考え、相手の顔を見ながらせりふを言うことができる。 ○ 映像を見て、友達の良かったところを見つけて発表することができる。

C児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手や観客に伝わる声の大きさを、せりふを言うことができる。</li> <li>○ 映像を見て、気付いたことを発表することができる。</li> </ul>
D児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話す速さに気を付け、相手の顔を見ながらせりふを言うことができる。</li> <li>○ 教師の言葉掛けを頼りに、友達の良かったところを発表することができる。</li> </ul>
E児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 語順や助詞の使い方に気を付け、相手に向かってせりふを言うことができる。</li> <li>○ 教師の言葉掛けを頼りに、友達の良かったところを発表することができる。</li> </ul>
F児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登場人物の心情を考え、相手の顔を見ながらせりふを言うことができる。</li> <li>○ 映像を見て、友達の良かったところを見つけて発表することができる。</li> </ul>

9 学習過程 別紙

10 教室内の配置図



11 資料・準備物(パワーポイント)

### おおかみと7ひきのこやぎ

A児	B児	C児	D児	E児	F児
7ばんめ	こやぎ	こやぎ	おおかみ	おかあさん	こやぎ
こやぎ	7ばんめ	おかあさん	おおかみ	こやぎ	こやぎ
こやぎ	こやぎ	おおかみ	7ばんめ	こやぎ	おかあさん
7ばんめ	おおかみ	おかあさん	こやぎ	こやぎ	こやぎ
こやぎ	こやぎ	おおかみ	おかあさん	7ばんめ	こやぎ
7ばんめ	おかあさん		おおかみ	こやぎ	こやぎ

配役記録表

「劇が上手になる8つの方法」カード

### げき じょうず ほうほう 劇が上手になる8つの方法

① <small>き こえ</small> みんなに聞こえる声で <small>せりふをいう</small>	⑤ <small>おきやくさんに む</small> おしりを向けない
② <small>せりふをいう</small> ゆっくり、はっきり	⑥ <small>しるし あ たつ</small> 印に合わせて
③ <small>き も</small> 〇〇の気持ちになって <small>せりふをいう</small>	⑦ <small>みるときは</small> しゃべらない
④ <small>あいて かお</small> 相手の顔をみながら <small>せりふをいう</small>	⑧ <small>わずれたひとには おし</small> こっそり教える

「今日のめあて」  
確認表

### きょう 今日のめあて

A児	B児	C児	D児	F児	G児
6	6	5	4	6	5
6	6	6	6	6	6
5	5		5	5	5

がんばりメーター  
の仕組み

## がんばりメーター

ともだち 友達の よかつた よかった ところを 見つけて、はっぴよう 発表しよう！

はっぴよう 発表した人 → あか 赤スタンプ

ほめられた人 → みどり 緑スタンプ

スタンプがいっぱいになったら → しール シール